

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第64号(201411)

発行 竹田幸男



交野ドームでのバーベキュー合同例会

寝屋川市映像協会では「交野ドームバーベキュー合同例会」を行いました。これは「星の里いわふね(交野市立いわふね自然の森 スポーツ・文化センター)」の中にプラネタリウム施設がありましたが、機械の故障のため利用できない状態でした。この施設のドームを活用できないか、との関係者からの相談を機に、ドームに映像を映してみようではないか、と思い立ち、同じ施設内でバーベキューが出来ることから、この行事を計画したものです。当日は映像北大阪、映像寝屋

川、寝屋川映像同好会の3団体が合同で午前中作品映写会を、午後は天の川の河畔でのバーベキューを行い、映像三昧の楽しい1日を過ごしました。

例会の窓

平成26年10月例会

日 時：平成26年10月8日(水)
13:30~16:30
場 所：寝屋川市民活動センター4階
ワーキングスペース

出席：天野 新井 小林 佐伯 竹下 竹田 谷 田淵

欠席：富田(50音順敬称略)

例会次第

1. 各会員の最近の活動状況・情報交換

- ・AVCメモの内容を中心に話題を提供する。今回は「マイクロソフトの罪」聞いてみると、幸か不幸か、会員でウィンドウズ8を買った人は居なかった。

2. 報告・連絡・協議事項

(1) 会報筆者 富田さんのところ、欠席なので入れ替わって天野さん。

(2) 交野ドーム・合同例会・バーベキュー (雨天決行)

- ・映像北大阪・映像寝屋川と合同例会
- ・10/24(金) 10:00 3000円~3500円
- ・プラネタリウム映写後 バーベキューパーティ
- ・映像北大阪から7名参加、同好会からは4名参加予定。

(3) 撮影会 岩船寺・浄瑠璃寺

- ・11/19(水) 予備日11/21(金)

(4) 同好会ビデオ作品発表会

- ・27年3月14日に向けて準備を開始する。各人のテーマは?

(5) 「映像に生命を与えるナレーション」講習会・結果

- ・13名参加(同好会から5名)

(6) 「プレミア エレメンツ12学習会」は、役に立ったか?

- ・少しずつ編集をはじめている。講習会をして頂いたから前へ進める気がします、との声があった。

- (7) 今年のふれあいフェスタ 11 / 8 (土) 10 : 00 ~
- ・「テープ救出作戦」のタイトルの下に特にVHSテープ、DVテープ、カセットテープの変換の必要性と方法のPR、実演を行いたい。
 - ・もう一つ「映像何でも相談」もやりたい。会員の利用も歓迎。
 - ・実演お手伝いと相談員に新井さん・小林さん。
 - ・編集の受講参加、佐伯さん、谷さん。
- (8) 寝屋川市民文化祭 11 / 1 (土) 9 : 30 総合センター集合
10 : 30 映写開始、16時まで。
- (9) 大阪アマチュア映像祭 11 / 2 (日) 映像協会からは服部作品を出品
- ・OMC映像フェスティバルは11 / 16 (日) (いずれもパンフレット配布)
 - ・外部のいい作品を見ることがいい作品作りに繋がることを忘れないで欲しい。
- (10) 忘年会日程「がんこ」12 / 6 (土) 12 : 00 (11 : 40 集合)
- ・会費4500円 最終出欠は後からで良い。

3 . 映写・合評

- (1) 竹下さん 巨木探訪「世界一大きい木」 10分
- ・大きい生き物の比較をイラストを使って示すなど工夫されている。
 - ・ナレーションが終わると共に映像も終わって余韻がなく、ラストの音楽とナレーションが重なり聞き取りにくいので、少し前にナレーションを終わり、その後BGMの音をあげていくようにされた方がいいのでは。
- (2) 新井さん 泥リンピック 17分
- ・完成品ではない作品です、とのこと。
 - ・かわいい幼稚園児が泥の田んぼで楽しんでいる様子がいい。
 - ・完成品には挨拶する代表者？ の名前を入れた方がいい。
 - ・この行事の主催者と、行事の目的がわかるように表現されると良い。

4 . 会員の当面する問題点質疑応答

- ・Ediusの書き込みに時間が掛かる。また出来上がったファイルがどこにあるのかわからない。

5 . 来月の開催日 11 / 12 (水) 13時30分 4Fワーキングスペース



こんなビデオ作り(静止画)も楽しいものです

天野 忠一

ビデオ編集といえば、動画の編集がまず頭に浮かびます。しかし一方、静止画（写真）を使用したビデオ編集も結構楽しいものであり、編集の仕方によっては、鑑賞者に十分製作者の意図を汲み取っていただける作品も作れそうです。この編集作業は、プレゼンテーションにも使われてきたスライドショーの制作と考えた方が良くかも知れません。

私自身、今日まで動画の編集を楽しんでいたためか、静止画で編集といった事にはやや消極的であったことは否めません。しかし今回初めて静止画ばかりで作品(?)を作ってみたところ、そのメリットを感じると同時に作る楽しさ、結果として見ていただいた方にもまずまずの印象を与えたようであり良かったと思っています。(プレゼンテーション用として、また記録としての作品作りに適しているかも)

編集作業は市販されているスライドショー作成ソフトで作ったのではなく、一般的なビデオ編集ソフトで作品作りをおこないました。したがって、動画が静止画に代わっただけであり全く動画編集をしている時と作業は変わりません。

今回作ったビデオの例になりますが、何故静止画で作品を作ることになったかといいますと、『いつまでに』という時間の制約を受けた場合、短時間に素材を入手しなければなりません。静止画は案外手軽に入手出来る場合が多いということです。また、プロジェクト全体の時間設定(何分の作品にするか)が、動画編集の場合と比べて自由性があることでした。

素材の入手についてもう少し考えてみますと、動画で制作する場合は、当然動画の素材が必要ですが、思い立った時に適当な動画の素材が身近に無い場合が多々あり、一から撮影となりますと内容によっては、ずいぶんと時間を割かなければなりません。また撮影も『誰かに協力を』と思っても、結局は自分一人ということになる場合がほとんどです。(個人の作品を制作する場合は当然ですが)

一方静止画となりますと、今や誰もが所有しているデジカメの撮影データが素材となるため、多くの撮影協力者が周囲にすでに存在するという環境が出来ています。また場合によっては、過去に撮影したデータをそのまま活用することも出

来ます。インターネットのフリー画像も使い方によっては有力な素材になるということが考えられます。

しかし、今回制作したような静止画を素材とするビデオの場合、画像を美しく見せるためには、ある程度大きな容量で保存した画像データを使用する必要があります。また意図的なものを除き、紙写真からスキャナー等で取り込むことはあまりお勧めできないように思います。さらに動画のように細かいところまでの描写は難しい面があり、どうしても動画時以上のナレーションによる説明力が頼りになってきます。ナレーション力が大きく作品の出来を左右するようになると思います。

ところで、この静止画ビデオ（スライドショー）を、どのような場で見ていただく機会を持ったかといいますと、ビデオ作品発表会というような場ではなく、ややプレゼンテーション的な意味をもって説明が必要な場、具体的には約30名の団体の中で『ある事』を説明する場でこの静止画ビデオを使用することにしました。

それではこれまで、どのような方法で『ある事』を説明していたかといいますと、担当者数人が立ち代り資料を見ながら口頭で説明をしていました。しかし説明者によって、説明時間の長短（全体的に長くなる傾向）、説明が分かりやすい、分かりにくいがあり、参加者から返ってくる反応は何となく薄い感じがしていました。またパワーポイントで説明という方法もあり、少し視覚的に捉えた説明も試みましたがこれも今一つの反応でありました。

何とか手応えが見える訴求方法はないものか？ 決められた時間内で適確に内容を訴求する方法はないものか？ と考えた結果が、画像に載せたBGMと効果音で参加者をその情景の中に引き入れ、分かりやすいナレーションで解説する静止画ビデオを制作し、それを大型ハイビジョンでビジュアルに訴えてはどうかという方法であります。

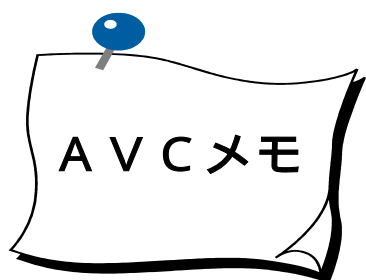
上記のような事を考えて、制作したビデオを使用した結果に対する参加者の反応は、これまでと異なり、時間どおりの説明とビジュアルが功を奏したせいか、概ね良い反応を得ることが出来ました。

今回は組織としてのビデオ作りでしたが、個人の静止画ビデオ作りでも同じような事が言えると思います。数年前に『人生の扉』という静止画90% 動画10%のビデオを作りました。初めて静止画中心のビデオでしたが、個人的にはまずまずの出来だったと自己評価をしましたが、静止画ビデオも内容によっては通用す

るのではと思ったものでした。

発表会で見る作品には、“感動した”、“なるほどそうだったのか”と感じさせる作品に出会います。このようなことを感じさせる作品は、同じ対象物である作品を作っても制作者によって『物の見方、捉え方、ストーリーの展開の仕方』が異なり、その差が大きく作品に出ているように思います。それさえしっかり押さえておけば、動画、静止画関係なくいい作品が出来るのではないのでしょうか。

私の今回の作品は、組織で使用するための紹介ビデオであり、これはこれで良かったと思っています。次回も制作予定のある紹介ビデオですが、さらに新鮮さとリアル感を持った作品を作りたいと考えているところです。また、静止画ビデオで感動を覚えていただける作品は出来ないものか、そして現在の作品作りの発想から一皮剥けた作品作りが出来ないかをしっかり考えながら楽しく作品作りに取り組んでいきたいと思っています。



音楽映像のカット切り替えのタイミング

竹田 幸男

ある人が仲間内の音楽演奏を撮って編集して作った作品を見ました。カメラも2台使って、曲の途中で画面を切り替えてつなぐなど凝った編集をされていましたが、何となく見ていて違和感がありました。その違和感の原因は何か、よく考えてみると、音楽作品であるのにカメラ切り替えのタイミングがどうも音の流れを断ち切っていると感じました。それは映像のいいところだけを取って切り接ぎをされているので、音の流れが無視されているようなのです。つまり、音楽の途中、メロディーの続いている途中で画面が切り替わり、音楽のメロディーは連続しているのに関わらず、音楽の流れが中断するような感じになるのです。

このような音楽映像の場合、テレビなどの場面を良く注視してください。たとえば歌謡番組の場合、画面転換がズームやパンだけではなくカメラを切り替えることにより全身からアップへ、右側からの姿から左側へ、などイメージを切り替えています。またオーケストラのような器楽演奏でも、カメラを切り替えて変化を与え、ある所で独奏楽器奏者のアップに切り替えています。この切り替えのタイミングについてはきっと、ある法則で切り替えていることに気がつくでしょう。器楽演奏では休止符のある所で切り替えています。また歌謡番組などのボーカル

の音楽では、歌詞の句読点のある所で、これは同時に休止符のある所でもありますが、そういうところで切り替えていることに気がつかれると思います。

最近の歌謡番組を録画して調べてみました。歌詞の中に記入した「/」は、画面（カメラ）を切り替えている箇所です。

泣いて甘える あなたがいたら 耐えてゆけます 辛くても/
そんな女の ひとり言 酔って淋しさ 忘れるように/
呑みほしましょうか 呑みほしましょうか ころ酒/(藤 あや子 ころ酒)

街の灯りが とてもきれいね ヨコハマ ブルー・ライト・ヨコハマ
あなたと二人 幸せよ/
いつものように 愛のことばを ヨコハマ ブルー・ライト・ヨコハマ
私にください あなたから/
歩いても 歩いても 小舟のように
わたしは ゆれて ゆれてあなたの 腕の中/
足音だけが ついて来るのよ ヨコハマ ブルー・ライト・ヨコハマ
やさしい くちづけ もういちど/(市川由紀乃 ブルー・ライト・ヨコハマ)

くもりガラスを 手で拭いて あなた ^{あした}明日が 見えますか/
愛しても 愛しても ああ他人^{ひと}の妻/
赤く咲いても 冬の花 咲いてさびしい さざんかの宿/
(大川栄策 さざんかの宿)

このように歌詞の文章の途中ではなく、歌詞の句読点、特に読点「。」に相当する場所、しかも休止符のある所で切り替えていることがわかると思います。映像を心がける人は、歌謡番組といえども、ただ楽しむだけではなく、このように自分の作品に生かす時のことを考えながら楽しんで頂けたら良いと思いますね。